

「やり直しの勇気を応援できる社会に」

高砂市立米田小学校 6年 鍋島 幸穂



最近、ニュースやインターネットで、「犯罪をした人が社会に戻るときの壁の高さ」が話題になっているのをよく目にします。例えば刑務所から出た人が就職活動をしようにしても、経歴を理由に断られてしまったり、近所に住む人から冷たい目で見られたりすることが多いというニュースを見て、私はとても気になりました。私の身近なところでは直接そういう人に出会ったことはないのですが、ある動画で、学校の友達の家族が失業してしまった時、周りの人が余計なうわさをしたり少し距離をおいてしまったりする様子を見て「社会の空気」というものが、人の心をどれほど傷つけるのかを、考えさせられました。私自身は犯罪や非行をしたことも、そのような人と深く関わったこともありません。でも日常生活の中で「なにか失敗をしたり、うまくできなかったときに、周りからどう思われるか不安になる」という経験は度々あります。例えば、授業で間違った答えを言ってしまった時、「もう発表したくないな」と感じたり、習い事で、何かミスをしたあと、しばらく周りにどう接していいかわからなかったりしたことがありました。これは小さなことかもしれませんが、「みんなのまなざしが冷たかったら、自分はもっとつらかっただろうな」と思いました。だから、実際に大きな過ちを犯してしまった人が社会に戻るとき、その不安や孤独は、私などとは比べものにならないほど大きいのだと想像します。そして、どんな現実があるのかを知りたくなり、調べてみることにしました。

ニュースや本などで紹介されていた事実によると、犯罪や非行に走る人の多くは、子供の頃から家庭や学校などで様々な事情や悩みを抱えて、苦しい思いをしてしまった人が少なくありません。そして、一度過ちを犯した人も、「自分が悪かった」と深く反省し、やり直したいという強い気持ちをもって社会復帰を目指しています。しかし実際には、社会からのきびしい目や偏見のため、仕事や住む場所を見つけることも難しいそうです。再復帰したいと頑張っているのに、それを応援できない

空気があるのが現実です。私はその事実を知ったとき、「そもそも私たちは『一度失敗した人はだめだ』と決めつけることで、さらにその人を孤立させてしまっているのではないか」と思いました。社会に戻る人たちが「自分に居場所がない」と感じてしまえば、どんなに反省し努力しても、前向きに生きることが難しくなってしまいます。そんな状況を変えたいと調べてみて感じました。

私が考える「やり直しを応援できる社会」とは、一人一人が「もし自分だったら」と相手の立場になって考え、優しさや思いやりを持って接することが当たり前になっている社会です。もちろん、過ちを許すこと、もう二度と同じことをしないよう支え合うのは別です。しかし、反省し新しく生き直そうとする人には温かい目を向けることが必要だと思います。自分が小さな失敗をしたとしても、そっと助けてくれたり、普通に接してくれる人がいたことで、自分もまた頑張ろうと思いました。それと同じようなことが、社会全体ですることができたらいいのに、と感じています。

私は今すぐに大きなボランティア活動や支援はできません。でも、身近な人が困っているときや、悩んでいる様子に気づいたときには、声をかけたり、無理に避けたりせず、普通の友達として接することはできます。例えば、いじめにあっても誰も話かけなくなった人がいたら、私はその人に、「大丈夫？」と聞くだけでも、きっと何かが変わると思います。誰かがやり直したいと勇気を出している時、それを応援する一言をかけたいです。

これから私は、どんな人でも「やり直しを応援できる社会」をつくる一員として、日々の生活の中で思いやりと優しい気持ちを忘れずにいたい。他の人にも、「一度の過ちですべてを決めつけず、やり直しを応援できる社会を目指してほしい」と伝えたいです。そのために自分も、まずは身近でできることから行動したと思っています。みんなが明るい気持ちで暮らせる社会を目指して、一步步前向きに努力できる人でありたいです。